

雅歌5章(70人訳)

- 1 私の親族が彼の庭に下ってくるように、そして彼の選んだベリーの実を食べるように。私は私の庭に行く、私の姉妹よ、私の相手よ、私は私のスパイスとともに没薬を集める、私は私のパンを蜂蜜とともに食べる、私は私の乳とともにぶどう酒を飲む。食べなさい、友よ、そして飲み、そうだ、兄弟よ大いに飲んで欲しい。
- 2 私は眠る、しかし私の心はさめていた：私の親族がドアをノックする声、彼はいう、開けて、私のために開けて欲しい、私の連れ合いよ、私の妹、私の鳩、私の完全なものよ、何故なら私の頭は露で濡れ、私の巻き毛には夜のしずくがある。
- 3 私は私の外套を脱いでしまった、どうして着ようか？ 私は私の足を洗ってしまった、どうして汚せよう？
- 4 私の親族はドアの穴から手を伸ばす、私の腹は彼に対して動いた。
- 5 私は私の親族に開くために起きた、私の腕から没薬が落ちた、私の指は錠のハンドルの上に、没薬を選ぶ。
- 6 私は私の親族のために開く、私の親族は去っていった、私の魂は彼のことで気を失った：私は彼を探した、しかし見つけられない、私は彼を呼んだ、しかし彼は私に答えなかった。
- 7 町を歩き巡る見張り人が私を見つけた、彼らは私を打った、彼らは私を傷つけた、壁を守るものたちは私のベールを取り去った。
- 8 私は野の力と徳によりお願いします、エルサレムの娘たちよ、もしあなたが私の親族を見つけたら、彼に何をいうでしょうか、私が愛に傷ついていることを。
- 9 あなたの親族は他の親族と比べ何がすぐれているのでしょうか、女たちのうちで美しい人よ？ あなたの親族が他の親族にまさるものは何でしょう、あなたが私たちにそのように頼むとは。
- 10 私の親族は白くそして赤い、多くの中から選ばれた方。
- 11 彼の頭は精錬された金、彼の巻き毛は流れるよう、烏のように黒い。
- 12 彼の目は水のプールのそばで鳩のよう、乳で洗われ、プールのそばに座る。
- 13 彼のほほは香りを放つボール一杯のスパイスのよう、彼の唇は百合のよう、選ばれた没薬を落とす。
- 14 彼の手はエメラルドとともに整えられた金、腹はサファイアの石の上の象牙の台。
- 15 彼の足は金の台座にはめられた大理石の柱、彼の姿はレバノン、選ばれた杉。
- 16 彼ののどはもつとも甘く、ともに望ましい。これが私の親族、これが私の連れ合いです、エルサレムの娘たちよ。